

2022 年度チーム別活動方針概要

棚田	園路竹林	果樹樹木キノコ
<p>1. 2022 年度活動方針</p> <p>チームリーダーがいない中で活動を進めることになりました。</p> <p>特定の人に負担を集中させず、みんなで棚田を盛り上げていきます。</p> <p>棚田景色を府民と楽しみ・護りながら新リーダーを待ちます。</p> <p>① 年間プログラム7ヶ月で進めます。</p> <p>『米づくり』は必修とし その他の栽培作物は一般参加者で決めていただき、栽培作物に合わせて最低限の作業日程を組んで進めます。</p> <p>定植・収穫だけでなく その前後も作業体験いただき、真の意味で食を学びます。</p> <p>② 参加者及びレンジャー全員が参加サポートできる日曜祭日に作業日・活動日を変更します。</p> <p>2. 2022 年度活動スケジュール</p> <p>①プログラム:大人の農業</p> <p>・4月～10月7ヶ月間とする。</p> <p>・プログラム参加者は毎月第2、4、5日曜日又は祭日とし、 第2日曜日は終日(10時～15時)第4、5日曜日は午前(10時～12時)を基本とする。</p> <p>・レンジャーは第4、5日曜日の午後補助活動にあてる。</p> <p>② チーム(グループ)活動日</p> <p>・11月～4月 毎月第2、4日曜日とし、棚田・茶畑のメンテナンスを行う。</p> <p>・米作り、野菜づくり、棚田保全ノウハウを全員習熟、レンジャーのスキルアップを図る。</p>	<p>*スローガン</p> <p>・「いそがず あわてず ゆっくりと」安全で楽しく活動する。</p> <p>・来園者に楽しんでもらえる園路づくりを目指して活動する。</p> <p>具体的には</p> <p>■園路管理</p> <p>・既設園路の付帯設備の点検補修 改修 新設を行う。</p> <p>・各「小径」の見晴処および「望みの丘の小径」のてっぺん広場の整備を行い眺望を確保する。</p> <p>・「高池の小径」の竹穂垣の補修および中高池に竹穂垣を設置して景観を保持する。</p> <p>・新たな園路の開設に向け活動する。</p> <p>■竹林管理</p> <p>・「竹の丘」および「高池の小径」の不要竹の間伐および下草刈りを行い</p> <p>竹林の景観保持を行う。</p> <p>・「竹の丘」園路沿いの竹柵の改修を行い竹林の保全と景観を確保する。</p> <p>◆ビオトープ管理</p> <p>・取水口からの水路が土で埋まらないよう縁石等を検討して改修する。</p>	<p>I. 活動方針</p> <p>1.果樹育成、植樹(森づくり)及びシイタケ栽培を通し四季折々の彩、多様な生き物、来て、見て楽しく食べて満足な公園</p> <p>2.生育に長期間かかる木が相手。適地適木、育苗等、総合的知見要。</p> <p>3.体制維持がキー、下草刈り等保育の全体活動化要望</p> <p>II.活動日とイベント</p> <p>1.活度日:月 2 回 基本第 2 土曜日と第 4 火曜日</p> <p>2.イベント:上之郷小学校植樹・11 月秋の郷遊び、吊るし柿。2 月シイタケ菌打ち。夏休みアゲハチョウの飼育観察子供自然教室</p> <p>III.部門別概要</p> <p>A 果樹</p> <p>1.育成中(40本弱、カキとウメが主、スモモ、柑橘)植込み後7年のウメとカキで着果開始。本格化は2-3年後</p> <p>B 樹木</p> <p>1.望みの丘東斜面の幼樹は順調、南はイノシシ掘り返し被害で要補植</p> <p>2.隠れ池と周辺部で水捌け調査,不良箇所は少ない。日照が問題</p> <p>3.隠れ池の谷筋は紅葉の谷にモミジ、ケヤキ、ムクノキ、棚田跡はツツジやコナラ、クヌギやヤマザクラ混植を計画</p> <p>4.スイセン畑奥のウメ老木周と道を挟んだ林縁(根笹が覆う)は日当たり良く、植樹候補地。</p> <p>5.育苗:ドングリ類、ツツジの挿し木増殖中・モミジ類、ヤマボウシ他広葉、常緑樹の育苗</p> <p>C シイタケ栽培 ・現ホダ木 93本を半減</p>

自然ふれあい	天神川流域整備	竹工作
<p>2022 年度活動方針</p> <p>1. 主要な活動であるハンノキ保全エリア整備、ササユリ保全育成活動、自然観察会、樹名板作り、水仙保全、各種イベント開催を継続する</p> <p>2. 女性がやりたい活動を独自に計画してもらい、イベント開催、活動参加をさらに推進する</p> <p>3. チームメンバーのスキルアップを図るため講師招聘して講座開催もしくは園外臨時活動を企画する</p> <p>4. 東地区は産業集積用地として用途変更の話が進んでおり、東地区の貴重な生き物の保護対策、希少な植物の中地区への移植を専門家と相談しながら進める</p> <p>5. 月1回第2日曜の定例活動がコロナで中止、時間短縮、人数制限で十分な活動が出来ない場合は臨時活動を追加して対応する</p> <p>6. イベントとして下記を予定</p> <p>5月22日(日)スキルアップ講座と自然観察会</p> <p>6月5日(日)ササユリ鑑賞会</p> <p>8月28日(日)自然工作 午前女子T 午後男子T</p> <p>9月25日(日)自然観察会</p> <p>11月5日(土)秋の郷遊び男女コラボで企画</p> <p>12月4日(日)リース作り</p> <p>1月22日(日)スキルアップ講座と自然観察会</p> <p>2月26日(日)子供自然教室</p> <p>3月26日(日)自然観察会計10回</p>	<p>天神川流域整備チーム(蛍の郷)活動方針</p> <p>1. チーム活動目的・基本方針</p> <p>『目的』天神川流域のホタルを当公園の魅力の一つとして、地域の人々や教育機関等に発信するとともに、「ホタルの観賞会」イベント開催を通じて、ホタルの環境保全活動に興味を持っていただく。</p> <p>『基本方針』天神川流域地域でホタルの生息に適する環境保全活動を行い、大阪府下で誇れるホタルの調査研究場所に育てていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天神川の生物(魚類等)調査を行い流域の環境を把握する。 ・来園者に天神川流域の景観を見ていただけるように、「蛍の環境に影響しない期間に限って」の開放に向け準備する。 ・草木染活動を通じて公園とパーククラブの魅力を発信する。 <p>2. 活動日</p> <p>「チームの活動日」原則毎月第2・3・4水曜日及び第3土曜日 午前中(草木染活動)</p> <p>「調査活動日」天神川の生物調査(4/27、10/26)、ヒメホタルの幼虫調査(3/8、3/15)ホタルの成虫調査(5/13～6/10の金曜日6回程度)</p> <p>「イベント活動」ホタルの観賞会(5/28)、草木染体験(8/20)</p>	<p>2022 年度活動方針</p> <p>① 公園内と近隣にある自然資源を利用し、来園者にイベント・講習を通じて竹細工・竹工作等を制作体験頂き、伝統技術を伝承する。</p> <p>② 通年楽しみながら竹細工・竹工作のスキルアップに努め、チームレンジャーの知力・体力の維持・向上を図る。</p> <p><具体的には></p> <ul style="list-style-type: none"> ・良質の真竹、篠竹、孟宗竹、米藁等の自然資源をタイムリーに確保し、竹細工・竹工作・藁工作などレンジャーのスキルアップ自分磨きを図る。 さらに一段の竹細工スキルアップのため、外部講師招聘を検討する。 ・イベント企画運営担当者はチームメンバーで持ち回りを基本、年初に決める。 企画書作成と部材・道具調達および会場設営を指示し、講師も兼ねる。 ・チームレンジャーで制作した作品は、パークセンター内に広報を兼ね展示する。 ・篠笛の演奏練習は昼休憩・自宅で反復し、将来的に演奏会を目指します。 ・えんサポについてはコロナ禍が終息した時点で再検討とする。 <p>2. 2022 年度活動スケジュール</p> <p>①チーム活動日:原則毎月第一金曜日+イベント日とする。</p> <p>イベント活動日:土曜日午後を基本とし、その午前はスキルアップ活動とする。</p> <p>活動報告は当日の担当者が行う。</p> <p>②竹工作体験イベントは年8回、竹細工講座年2回を目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹工作体験は簡単なプログラムを採用し、準備・練習日を設ける。 ・当日はできるだけゲストの制作を見守る、プログラムによっては2時間に拘らず設定 <p>③公園備え付け手作り遊具などの補修・補完日年2回程度を全体活動時に設ける。</p>